

報告書抄録

ふりがな	きょうとふいせきちようさほうこくしゅう
書名	京都府遺跡調査報告集
副書名	
巻次	第170冊
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第170冊
編著者名	引原茂治・増田孝彦・石井清司・筒井崇史・竹村亮仁・橋本稔・渡邊拓也・田原葉月・伊賀高弘・松井忍
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番03 Tel. 075(933) 3877
発行年月日	西暦2017年3月23日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m ²	
ながおかきゅうあとだ いごひやくじゅうよ じ・でんちよういせき 長岡宮跡第514次・ 殿長遺跡	きょうとふむこうし てらどちようきたか きうち 京都府向日市寺 戸町北垣内	26208	33	34° 57' 10"	135° 42' 01"	20160628 ～ 20160704 20161219 ～ 20161221	30	道路建設
ながおかきょうあとう きょうだいせんひやく さんじゅうはちじ・い のうちいせき・いまざ といせき 長岡京跡右京第 1138次・井ノ内遺 跡・今里遺跡	きょうとふながおか きょうしいまざと 京都府長岡京市 今里5丁目	26209	15	34° 56' 20"	135° 41' 12"	20160823 ～ 20160914	196	道路建設
しもみずしいせき 下水主遺跡	きょうとふじようよ うしてらだいまば し・みなみかわせ 京都府城陽市寺 田今橋・南川瀬	26207	88	34° 51' 06"	135° 45' 41"	20141117 ～ 20150306 20150424 ～ 20151009	1,220 6,000	道路建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長岡宮跡第514次・殿長遺跡	集落跡	古代～中世	土坑・溝・井戸・ピット	土師器・須恵器・瓦器・陶磁器・瓦	
長岡京跡右京第1138次・井ノ内遺跡・今里遺跡	集落跡	古墳～中世	掘立柱建物・土坑・井戸・柱穴	土師器・須恵器・瓦質土器・製塩土器・瓦	
下水主遺跡	生産遺跡	縄文晩期～中世	氾濫流路・土坑・溝・島畑	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・石器	

所収遺跡名	要約
長岡宮跡第514次・殿長遺跡	今回の調査は、府道西京高槻線の拡幅工事に伴い5か所にトレンチを設けて実施した。長岡京北辺推定地にあたる調査区もあったが、長岡京期の遺構は検出できなかった。中世の集落に関わるとみられる13世紀頃の溝、16世紀頃の石組井戸等を検出し、瓦器、土師器、陶磁器等が出土した。
長岡京跡右京第1138次・井ノ内遺跡・今里遺跡	今回の調査は、府道長法寺向日線拡幅工事に伴い6か所にトレンチを設定し、調査を実施した。長岡京に関する条坊遺構は確認できなかったが、井戸1基を検出した。古墳時代後期と推定される掘立柱建物2棟、中世の集落に関わると考えられる土坑、柱穴を確認した。そのほか、10世紀代の柱穴が検出されており、周辺に当該期の遺構の存在が示唆される。
下水主遺跡	下水主遺跡L2・M・O地区では、平成26・27年度に現地調査を実施した地点で、中世段階に造られた島畑14基の様相とL区とM区の境に想定された坪境溝の可能性のある東西方向の溝を検出した。また、島畑の造成以前の遺構として弥生時代中・後期の土坑のほか、L1区で検出されていた縄文時代後・晩期の流路の東延長部を確認した。 島畑の調査では南北方向の長地型を基調とし、坪境付近では東西方向の島畑が存在すること、島畑成形に際しても前後関係が存在することを確認した。下層の弥生時代中・後期の遺構が調査地の北東部に点在しており、調査地周辺に堅穴建物を含む集落の中心部が存在する可能性が高まった。また縄文時代後・晩期には木津川の破堤によって形成された流路の存在とともに流路内に堆積した植物遺体によって縄文時代後・晩期の自然環境を明らかにすることができた。